

希望とは行動する(1)

両親殺されても報復拒否。平和な未来信じる

イスラム組織ハマスに両親を殺されても報復にくみせず、デモで停戦を求めるユダヤ人がいます。イスラエル西部の町ビンヤミナに暮らすマオズ・イノンさん(48)は「イスラエルにもパレスチナにも平和を求める人々がいる。私たちの思いを日本の読者に届けてほしい」と本紙のオンライン取材に訴えました。(カイロ＝秋山豊)



(本大提供)

イスラエル在住ユダヤ人

マオズ・イノンさん(48)

シリーズ **ガザ** と6カ月 **世界**

ユダヤ人とパレスチナ人の対立はかつてないほど深まり、互いにつらいトラウマを抱えています。昨年10月7日の朝7時半、ガザに近しい集落に暮らす父から銃撃と爆発が起きていますSNS

でメッセージが来ました。すぐにニュースでハマスがガザ周辺の集落に侵攻したと知りました。私は父に電話し、どうか母と一緒に無事でいてほしいと話しました。ニュースはハマスが集落を支配したと伝えました。私は再び父に電話しました。連絡がつかせませんでした。午後になり集落の警備担当者との連絡が取れました。家に両親の遺体があると告げられました。

しかし私はいかなる報復も拒否します。イスラエル政府はこの半年でガザを壊滅状態にし、死傷者を増やし続けてきました。憎しみと報復、流血の連鎖を増幅させたばかりで、国内の安全と治安をいまだに確保できていません。これこそイスラエルにとつての敗北です。

中東と北アフリカにはかつてユダヤ人とアラブ人が共存していた歴史があります。私は両親から誰もが平等でなくてはならず、国籍や宗教で判断してはいけないと教わり生きてきました。長きにわたるイスラエルとパレスチナの紛争を終わらせないといけません。イスラエルでは停戦と平和を求める声が抑圧されています。政府はテレビやメディアを使って戦争をあおっています。パレスチナ人を人間として扱わず、イスラエルがガザで行っていることはパレスチナ人の自業自得だと国民に信じ込ませようとしてきました。

私は以前からユダヤ人とパレスチナ人、両方の友人らと交流し、両親が殺害された後は、その機会を増やしてきました。交流のなかで、ハムディさんというパレスチナ人の平和活動家から希望とは行動することなのだと言われました。希望は与えられないものでも失うものでもなく、自分たちでつくるものなのです。

だからこそ私はユダヤ人とパレスチナ人、ユダヤ教徒とイスラム教徒、キリスト教徒が共に希望をつくりだし、未来を良いものにしようと多くの人々に訴えるために活動しています。